

広島県がうちとした自己表現、そもそも何のために？私はいこう考える。キーワードは「思考力」。君らは知らない間に考える力が奪われている可能性がある。ぶっちゃけ検索力は私よりすごかろう。だが検索できなかったら？想像力は？

自問自答

その35

令和5年12月11日(月)

広島市立己斐上中学校 進路通信

発行人：気を付けろよ、便利で実用性ばかり重視すると思考停止をもたらすぞ。
そこに広島県が危機感をもたなければ私も同感



永久保存版
人生
自己表現の攻略法

懇談会期間中、実際に「自己表現」をやってもらいました。
私が満点をつけたのはただ一人、三木さん、お見事でした。
というわけで、今後の人生にも役立つ攻略法を伝えます。

何かに取り組むときにまず考えること。それは「そもそも何のために？」です。ここを徹底的に考えます。

そして今回は「評価の観点」に表れています。

三木さん、全体発表ありがと！
休んでた人、また聞かせな。わっ、三木さん

① 自己を認識する力 ② 自分の人生を選択する力 ③ 表現する力

もっとも多かった「惜しい」自己表現。それは、部活(ちなみにに具体名を言わないと相手は何の部活か知りません)でこんなことをやった、こんなことに取り組んだ、委員会でこんな活動をやった、校内や校外でこんなボランティア活動をやった、こんな行事をやった、「やったこと」ばかりを話す人。

聞きたいのはそこじゃない。で、あなたはどのような人間なの？自分のことをどう認識しているの？

それらの経験を通してあなたは何を感じ、自分とはどのような人間なんだ？と自問自答し、どう自分を見つめ直したの？と、評価基準は言っているわけです。

で、あなたの夢や目標、やりたいことは何ですか？と。そしてそれらは人から言われたものではなく、あなたが、あなた自身で考え、あなたの意志で決めている、他人軸ではなく自分軸であなたの人生を生きていますか？というわけだ。あとはそれらをどう表現して伝えていくかの問題。これが自己表現です。

そんなこと言っても三木さんみたいな体験ないし、,,と言う人は、例え三木さんと同じ体験をしたとて、同じように話せるとは限らない。それはつまり「感性・感受性」の問題なの。同じ体験をしても人によって受け止め方・感じ方は違う、って言う。「どうせ自分は感性弱いし、感受性ないし。」なんてことを口にする。

そうじゃないの。感性・感受性は生まれながらに持っているものではなく、磨いて磨いて身に付けていくもんなんだよ。じゃあ、どうやって磨いて、どうやって身に付けていくのさ？言っとくけどすぐには身に付かんよ。だって一生をかけて、磨いて磨いて身に付けていくもんだからね。

かつあい

その方法(たくさんある)を語るには、あまりスペースが残っていないので割愛するが(笑)、とりあえず残された2か月半でできること。もう一度、自分の原稿を見直して、「やったこと」ばかりに着目するのではなく、やったことを通して「自分って何者？」という問いを立ててみなさい。その上で「高校に入っても勉強やクラブを頑張りたい」ではなく、勉強やクラブでもいいんだけど、何を何のために頑張るの？ってこと。

ここから先は、バージョンアップした人から個別に対応します！放課後を中心に声をかけてください。
目指せ「おおむね満足できる」からの～、あわよくば(笑)「十分に満足できる」の5点・5点・5点!!

1年が早いなぁ...今年の自分成長したかなぁ...こないだ浅弘さんが「面接してくださいって、うん、やろうやろう!以前 出た 問いに 対応して 立派な 自分なりの 答え 出していたもんね。成長したなぁ」って。中学生の頃、どうしても周りと比べちゃいがちだけど、

自問自答

その36

発行人: 比べるなら、去年の自分、昨日の自分

令和5年12月22日(金)

広島市立己斐上中学校 進路通信

と比べてみよう!

その方が人生 エンjoy できる気がする... ㊗



冬休み、気持ちが入らない
時にはこれを読め

今回お届けする話は、昨年度の進路通信の最終号に載せた話
です。これから迎える冬休み、もしも無駄に過ごしそうな気持ち

になったら、この号を読んでみてください。

私が長谷川さん一家に出会ったのは今からもう30年近く前、真夏のエジプト、小さな町の小さな食堂でした。当時私はイギリスの日本人学校に勤務していて、夏休みを利用してエジプトを旅していました。長谷川さんとはご夫婦と小さな女の子を連れた3人家族、真夏のエジプトは灼熱地獄になるので、小さいお子さんを連れての家族旅行は珍しいな~と思っていました。

たまたま食堂で出会い、食事を一緒にとることになったのですが、奥さんの裕子さんがしきりにこう話されるのです。「いいですね~、今、イギリスなんですか。若いうちにやりたいこと、やれることをとにかく一生懸命やってくださいね。」と。当時は私も大学を出たばかりの若造、「そうですね、そうですね。」とニコニコしながら相槌を打っていたのを覚えています。

話も盛り上がり連絡先を交換して別れ、日本(東京在住の方でした)とイギリスでしばらく手紙のやりとりを続けました。お互いの近況報告をしあいながら2年ちょっとかな。いよいよ私も広島に帰国することになり、教員採用試験に合格したことを手紙に書いて送ったら、いつもは裕子さんから来る手紙が、初めて旦那さん(隆さん)から届いたんですね。そこにはこう綴(つづ)られていました。

「お手紙ありがとうございます。そして採用試験合格おめでとうございます。一つ、増尾さんにお伝えしなければなりませんが、妻、裕子は永眠しました。実は増尾さんにエジプトでお会いしたとき、ガンの末期で、妻本人も余命が長くないことを知っておりました。それでどうしても妻が行きたかったエジプトを、家族で旅行することにしたのです。」と。

知ってたんだなあ、裕子さん、自分の命がそう長くないことを。だからあんなに「一生懸命やってね、一生懸命やってね」と繰り返して話してたんだ。今できることに対して一生懸命、「今」を大事にすることがどれだけ価値のあることかを一生懸命伝えようとしてくれてたんだなあって。

みんながね、「あ~、今日はつまんねえ。」とか「今日は気分がのらないなあ~」って過ごす「今日」、そりゃそういう日だってあるでしょうよ。でもね、その「今日」っていう日は、裕子さんがどうしても生きたかった、何としてでも生き延びたかった、生きて娘さんの成長を一日でも長く見たかった、愛する旦那さんと、愛する家族と笑って過ごしたかった「今日」なんですよ。

だからね、先生になった時、この話は伝えていかなきゃって思ったの。裕子さんが命がけて伝えようとしたメッセージ。「今を一生懸命生きていますか?」って。「今日という日を大事に過ごしていますか?」って。